

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	ペガサス夜間保育園（2回目受審）
経営主体(法人等)	社会福祉法人山百合会
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-24-14
設立年月日	平成15年4月1日
評価実施期間	平成28年5月 ～ 28年12月
公表年月	平成29年1月
評価機関名	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま
評価項目	横浜市版

総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）

【施設の概要】

ペガサス夜間保育園は、JR横浜線及び横浜市営地下鉄ブルーラインの新横浜駅から歩いて10分ほどの所にあります。新横浜の中心地で、周りは横浜アリーナを始めとしてビルが多い商業地ですが、すぐ裏手には鶴見川の土手や大小の公園があり、子どもたちの散歩コースとなっています。

ペガサス夜間保育園は平成15年（2003年）4月に社会福祉法人山百合会によって横浜市で最初の夜間型保育園（開園時間土日とも朝8時半～24時）として開設されました。今年度より土曜日を除く平日の開園時間を8時半～翌日8時半と延長し、24時間保育園となりました。運営法人は他に同じ港北区内に3園、緑区に2園保育園を運営しています。

園は、鉄筋4階建てのビルの3階部分にあります。同じビル内には、同じ運営法人のペガサス新横浜保育園が入っています。3階にある保育室は日当たりが良く、明るく広々とした印象です。3階にある広いランチルームは2園合同で用いています。土の園庭は狭いですが、子どもたちが泥んこ遊びをすることが出来ます。屋上があり、夏には子どもたちがプール遊びを楽しんでいて、一角では子どもたちがプランターで野菜を育てています。

定員は20人、通常保育時間は13時から21時で長時間保育時間（11時～13時、21時～22時）、延長保育時間（8時半から11時、22時～翌8時半）は保護者の勤務時間により開園時間内（平日8時半～翌日8時半、土曜日8時半～24時）で保育しています。

保育理念として『子ども達の笑顔と未来のために』、「子ども達が信頼できる大人集団になるためにすべての人と手つなぎの輪を広げます」「子どもの身体づくりの為によりよい食事のあり方を目指します」「子どもの五感を大切に、生きる力の土台をつくります」を掲げています。

◆ 高く評価できる点

1、家庭的な雰囲気の中、子どもたちは落ち着いて園生活を過ごしています

園は、異年齢保育を実施していて、一つの家族のように年上の子どもが年下の子どもの手助けをしたり、年下の子どもが年上の子どもの真似をしたりする姿が日常的に見られます。ワンルームの保育室を0歳児、乳児、幼児と仕切って用いていますが、食事はランチルームを用い皆で一緒におしゃべりしながらテーブルを囲んで食べています。また、乳児と幼児と一緒に散歩に行くこともあります。

開園は午前11時ですが、夜遅くまで過ごす子どもがいるため子どもたちの登園時間もまちまちで、一斉に活動する時間は、午前11時から昼食までと午睡後と短いですが、製作やリズム遊び、体操などの活動を行っています。また、晴れていれば散歩や園庭に出て四季の変化を感じ身体を動かしています。

保育時間の長い子どものことを考慮し、保育士は家庭的な雰囲気を作り出すように努めています。乳児はそれぞれの生活リズムに合わせ、食事や午睡の時間を調整しています。トイレなども一斉に行くのは散

歩前と食事前だけで、個々のリズムに合わせています。また、夕食前の時間は、ゆったりとした雰囲気の中で、保育士に見守られながら、それぞれが好きな遊びをしてくつろいで過ごしています。保育士の膝にのって本を読んでもらったり、抱っこしてもらったりとスキンシップもたっぷりと取ってもらっています。

このように、保育士は、子どもたち一人一人に寄り添って子どもを優しく受け止め、子どもがその子らしく園生活を送れるように支援していて、子どもたちは落ち着いて園生活を過ごしています。

2、保育士は情報共有を密にし、連携して保育にあたっています

園は、24時間保育園という特性もあり職員の勤務時間が多岐に渡るため、職員間のコミュニケーションには特に力を入れています。月1回の職員会議や週1回の打ち合わせで情報共有を図っています。会議などに出席できない職員に対しては、会議録での確認とわからない所はすぐに質問することを義務づけています。夜間帯と日中帯との日々の引継ぎは口頭で行うとともに、子どもや保護者の伝達事項などはその都度連絡ノートに詳細に記載し、連絡漏れを防いでいます。職員会議に参加できない夜間帯専任の保育士に対しては夜間に会議や研修を別途実施しています。このような取り組みを通して、保育士は「子どものために」という意識を共有し、連携して保育にあたっています。

また、乳児から幼児まで全ての子どもに関わることから、様々なノウハウが必要になります。そのため、職員の研修には特に力を入れていて、外部研修にも積極的に保育士を派遣し、園内研修で報告し職員間で共有しています。また、主任が保育の現場に入って実際に保育する姿をみせ、保育士の疑問や悩みに答えています。

3、保護者との信頼関係を築くため、保護者とのコミュニケーションに努めています

園目標に保護者との連携を掲げ、保護者支援に力を入れています。全園児連絡帳を用いて生活の様子について密に情報交換するとともに、保護者とのコミュニケーションに力を入れています。職員は子どものできたこと、頑張ったことなどをエピソードも交えて伝え、保護者の声を引き出しています。幅広い年代の職員構成となっていて、保護者が相談内容に合わせ気楽に相談相手を選び、話し合えるような雰囲気作りをしています。保育参観などは仕事の関係もあり参加者が少ないですが、送迎時には声をかけて子どもの様子が見られるように働きかけ、保護者が安心できるようにしています。

園のこのような働きかけは、保護者の信頼につながっていて、今回の保護者アンケートでも高い信頼関係を見ることが出来ます。

◆ 改善や工夫が望まれる点

1、職員との話し合いを重ね、24時間保育のあり方を確立されることが期待されます

運営法人の「女性が安心して子どもを生き育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい」という理念の実現に向け、今年度より、朝8時半から翌朝8時半までの24時間保育を開始しました。

開始にあたっては、職員から様々な不安の声が上がり、経営陣は職員と一つずつ検討をし、話し合いを重ねてきました。今年度は、利用者が少ないこともあり試行の年となっていますが、保護者の働き方が多様化している現在、利用者の増加が今後は見込まれます。24時間保育を本格的に実施していくにあたっては、職員のローテーション体制の整備、夜間の緊急時の対応をどうするか、少人数異年齢保育の中で一人一人の子どもの年齢にふさわしい活動をどのように確保するか、養護だけでなく保育園に求められている教育の部分を24時間保育の中でどのように保障していくか、など様々な課題が残されています。また、需要のある一時保育の実施をどうするかという課題もあります。

今後も、課題解決に向けて職員と話し合いを重ねるとともに、研修などでさらなるスキルアップを図ることで、ペガサス夜間保育園としての24時間保育園を確立されることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

・保育理念は、『子ども達の笑顔と未来のために』『子ども達が信頼できる大人集団になるためにすべての人と手つなぎの輪を広げます』『子どもの身体づくりの為

	<p>によりよい食事のあり方を目指します」「子どもの五感を大切にし、生きる力の土台をつくります」、で利用者本人を尊重したものとなっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 虐待対応マニュアルがあり、全職員に周知されています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、港北区こども家庭支援課や横浜市北部児童相談所、民生委員・児童委員と連携する体制を整えています。 • 子どもの自尊心を傷つけるような保育を行ってはならないことを、全職員が認識できるように、全職員が年1回自己評価を行っています。 • 写真の取り扱いについて、「写真撮影（肖像権）に関する承諾書」を用いて説明し、保護者から許可を得ています。園の子どもに関する肖像権だけでなく、地域子育て支援を利用している保護者からも、同様の許可を得ています。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの発達や状況に合わせて、クラス担任保育士が指導計画を作成しています。職員会議や打ち合わせで指導計画について話し合い、共有しています。 • 一斉活動として、散歩や夏場のプールなど日常的な遊びのほかに、鬼ごっこやしっぽ取りゲーム、なんでもバスケット、ぱくだんゲームなどルールのある遊びを、年齢に応じて取り入れています。 • 小規模の園という理由により、各年齢の子どもの人数が少ないため、4、5歳児については、同じ建物の中にある系列園の午後の活動に週4回程度合流し、年齢・発達に合わせた人間関係を築くことができるように配慮しています。 • 0歳児クラス、1、2歳児クラス、3、4、5歳児クラスという異年齢の縦割り保育を実践し、異年齢の子ども同士が関わりをもてるように配慮しています。また、小規模の園であるというメリットを生かし、子ども同士が兄弟姉妹のように育ち合えるような家庭的な保育環境を大切にしています。食事の後には、幼児が乳児の着替えを手伝うという様子が日常の中で見られます。 • 散歩や屋外活動などを積極的に取り入れています。天気が良ければ散歩に行くことができるように日案指導計画を立てています。 • 食育の取り組みとして、子どもが育てた野菜でカレーライスやスープを作って、食事を楽しんでいます。野菜バイキングの日には乳児も参加し、野菜を自分で取り分けるなど、興味が持てるよう取り組んでいます。 • 登園の時間が子どもによって大きく異なるため、午睡時間については、家庭の睡眠時間を考慮しています。午睡をするのが難しい状況には、静かに横になっていることができるように配慮したり、別の部屋で遊ぶなど個別の状況に合わせた対応をしています。 • 園長、主任、保育士は保護者の様子を見守り、必要に応じて声をかけて相談にのり、保護者の思いや悩みを受け止めています。様々な年代の職員が日々コミュニケーションを取る中で、保護者が気楽に相談できるような雰囲気を作るよう心がけています。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ならし保育（短縮保育）について入園のしおりに明記し、保護者と相談しながら実施しています。家庭の状況に合わせて保護者と相談しながら日程を調整し、保護者が無理なく預けられるように配慮しています。 • 入園後の子どもの状況は、乳児は毎月、食事、生活、人間関係、遊び、健康の項目ごとに、幼児は4期に分けて養護、教育、その他の項目ごとに記録しています。子どもの記録は事務室の鍵のかかる棚に置かれていて、職員は必要な時に確認することが出来ます。 • 「健康管理・投薬マニュアル」「衛生管理マニュアル」「清掃マニュアル」「災害対策マニュアル」など各種マニュアルを整備しています。 • 事故やケガの発生に備え、保護者や関係機関の連絡体制を確立しています。「園

	<p>内での事故（ケガ）発生時の対応」や「119番の覚書」を保育室に掲示し、緊急時に速やかに対応できるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の門はオートロックになっており、職員が開閉しています。警備会社のセキュリティシステムを導入し、園内4箇所に防犯カメラを設置しています。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国夜間保育園連盟が行う全国夜間保育園経験交流研修会を通して、夜間保育に関する検討会に参加しています。また、幼保小教育連携事業研究会や、園長会、主任会、系列園と地域の子育てニーズについて検討しています。 ・地域子育て支援として、週1回の園庭開放（夏場はプール開放）、おやつ・ランチ交流会（随時）、行事を通じた交流会（月1回程度）、育児講座、一時保育（9:00～21:00）、育児相談（随時）などを実施しています。 ・港北区中部エリアの保育士主任会で企画をしている「にここ広場」に協力し、地域の乳児を対象にした保育イベントを行っています。また、港北区役所で実施する「わくわく子育て広場」に参加して、保育園の紹介やおよつ試食などのイベントに協力しています。 ・近隣と友好的な関係を築くために、地域の夏祭りへの参加や、横浜アリーナの花植え、近隣のホテルの七夕飾り、日産スタジアムの鯉のぼりイベントに協力しています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に保育の内容についての保護者アンケートを実施し、結果を集計して掲示しています。また、保育士は年度末に自身の取り組みについて自己評価しています。ただし、それらの結果をまとめて、園としての自己評価をするまでには至っていません。 ・「経営指針と職員の行動規範」、就業規則、職員倫理規定に組織及び職員が守るべき法・規範・倫理などが明文化するとともに、職員会議でも周知しています。 ・24時間保育を開始するにあたっては、懇談会や新年度説明会で保護者に説明し、保護者の意見を聞いています。職員に対しては、目的や決定した理由などを説明しています。職員会議で保育士から上がった声を取り上げて意見交換を行い、保育士の不安解消に取り組みました。 ・主任は保育に入り、個々の職員の業務状況を把握するとともに、個々の職員の相談にのり、能力や経験に合わせてアドバイスや指導を行っています。主任は保育を一緒に行う中で、職員が精神的・肉体的な状態を把握し、必要に応じて声をかけるなどしています。また、園長は職員の様子を観察し、必要に応じて個人面談を実施し、職員が悩みを抱え込まないように配慮しています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間保育園という園の特性を考慮し、横浜市の基準より多い人材構成となっています。新人からベテランまで幅広い年齢構成のバランスの良い人材構成となっています。 ・内部研修としてノロウィルス、ヒヤリハット・保護者対応などの研修を実施しています。職員は、横浜市や港北区などの研修に積極的に参加しています。研修に参加した職員は報告書を提出するとともに、職員会議で報告しています。 ・非常勤職員にも業務マニュアルを配付しています。非常勤職員に対しても、年間個人研修計画を用いて、資質向上への取り組みを行っています。非常勤職員も園内研修だけでなく外部研修に一度は参加することとしています。 ・24時間保育園という特性もあり、勤務時間が多岐に渡るため職員間のコミュニケーションには特に力を入れています。職員会議や打ち合わせに出席できない職員は会議録で確認するとともに、わからない所はすぐに質問することを義務づけています。

- 研修などで得た良い事例を職員会議で報告し、園に当てはめて皆で検討しています。また、横浜市北部地域療育センターの研修や横浜市総合リハビリテーションセンターの見学、リズム公開保育の外部講師などからアドバイスを受けています。